

徳川をささえた三河武士

大久保一族 ゆかりの 妙國寺



◆鐘楼堂

◆朱色の山門

◆宇津宮泰藤の墓

山号	本寿山
宗派	法華宗 陣門流 (総本山・本成寺)
本尊	大曼荼羅 (本仏釈尊)
三宝尊	釈迦如来(左)・お題目・多宝如来(右)
創建年	暦応4年(1341)
新本堂	平成29年落慶
開基	日道(三河和田郷に移り住んだ 「大久保氏の祖 宇都宮泰藤」の妻の父)
住職	西川泰裕(25代目)
住所	岡崎市宮地町寺北19

◆(新)本堂 場所を変え、南向きに建つ



(旧)本堂
江戸時代に建立。
東向きに建つ。
今はない。

西川住職



本堂内に、参加者が集まっています。

9:51



【西川住職のお話】

- 「作左の会」の皆さん、ようこそお越しいただきました。
今日は、妙國寺と、この寺にゆかりの大久保家、その先祖の宇都宮家についてお話したいと思います。

六ッ美の中でも歴史の古い妙國寺

- 当寺は、室町の初期の創建ですから、約680年経っています。六ッ美でもかなり古い寺の方です。
- 前の本堂は、江戸中期に建て建てられたもので、近年では、三河地震や伊勢湾台風で

被害にあい、かなり痛んで雨漏りがあったり、耐震上も問題だったりでしたので、建て替えることにしました。古い寺は、段があったり、使い勝手が悪いのですが、今回、この本堂は、震度7に耐えられるものにするだけでなく、使い勝手のいいものにもすることも考え、建て替えました。

お話を進める前に、まず焼香を！

○カーテンの向こうに、祭壇があり、仏さまがおみえになります。太鼓の音と共にカーテンが開きますので、まず、お焼香をお願いします。

- ①ご住職が太鼓を打ちます。 ②カーテンが開き始め、祭壇が…。 ③大太鼓の轟音と共にカーテン全開。

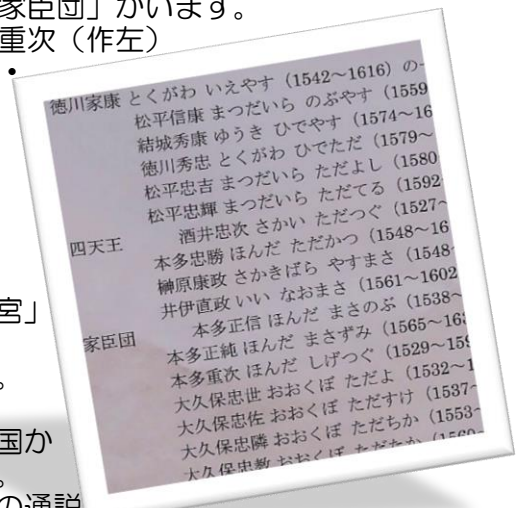


お参り・お焼香。 10:08

徳川を支えた、三河武士の家臣団



○資料を作っておきましたが、いわゆる三河武士と言われる人たちが、家康を支えていました。まず、「一門衆」で、家康の子供たち（身内）です。それに「四天王」。酒井忠次・本田忠勝・榊原康政・井伊直政です。さらに「家臣団」がいます。ここには、大久保も、本多重次（作左）もいます。それぞれ、戦績・功績をあげ、名を残しています。いろいろな家臣があって、江戸幕府ができたんです。



大久保氏の始祖は、宇都宮泰藤。宇都宮⇒⇒⇒大久保！

- 大久保家は、徳川ができる直前にできた家系です。前は、「宇都宮」という姓でした。お気づきの様に栃木（下野国）の宇都宮です。本家を栃木（下野）宇都宮氏とする家系で、泰藤は分家なんです。宇都宮氏は各地に分家（庶家）がありますが、泰藤の家系は出てきません。宇都宮泰藤は南朝方で、新田義貞が討たれた後、越前国から、隠居地をこちら（三河国和田郷）と考え、移転してきました。
- 宇都宮から改名を重ね、大久保になります。これについての歴史の通説はありますが、「寺の言い伝え（妙國寺に伝わる話）」は、改名の多いのは、病気など悪いことがあると、改名したからだということです。宇都宮から、宇都（うど）・宇津（うつ）・大窪と変えました。大窪姓については、「宇津の時に、戦国武將に大窪という者と戦い、勝ちました。その者が死ぬ前に“自分が死ぬと家系が絶えるので、名前を貰ってくれ”と言ったので『大窪』を名乗りました。しかし、その後、家運が悪かったので『大久保』姓に変えました。」というものです。
- 大久保氏の仕えたのは、（宇津昌忠の時から）松平家ですが、松平はもめごとの多い家系でした。親戚同士での争いごとが多かったです。お互い、信用していないので、ゴタゴタが多かったです。その中で、大久保も影響を受けています。

◆宇都宮泰藤の墓



大久保一族は上和田城を支配していましたが、織田方に付いた佐々木城主の松平忠倫が、上和田城を支配することになり追い出されました。大久保は、占部川対岸にある、現在の稲荷神社のところに屋敷をかまえ移り住んだのです。
〔参考；その後、羽根の地に東西二城（羽根西城=稲荷神社、羽根東城=羽根郵便局あたり）を築き、対織田の最前線で戦い続けるなど、松平宗家に忠誠を尽くした〕

1352年没



この墓は、もともとの場所にある

◆大久保家の遠祖供養塔



字も消え、個々の墓が誰のものかは全くわからない

〈参考〉 大久保氏（初期）

宇都宮泰藤（妙國寺に墓碑）— 奏綱 — 孫・宇津泰道（宇津に改名）… 昌忠（松平家に）……
… 宇津忠茂 — 大久保忠俊（大窪→大久保に改名、清康・広忠・家康の三代に仕えた）
— 大久保忠員（忠俊の弟）— 忠世（徳川十六神将・小田原城主）— 忠隣（秀忠老中）
— 忠佐（忠世の弟、徳川十六神将・沼津城主）
— 彦左衛門忠教（八男・旗本。三河物語を書く）

大久保氏の活躍（武功）

- ① 忠茂…清康が松平昌安の岡崎城を急襲して攻め取ろうとした時、これを諫めてまず支城の山中城を攻略してから降伏を促すように進言し、自ら攻め取り、岡崎に進出の道をひらいた。
- ② 忠俊…守山崩れの後、松平信定の反逆で岡崎を追われた広忠を支援し、帰還させた。
- ③ 一族…三河一向一揆の時、一揆方家臣の出る中、一族挙げて家康から離れず、最前線で戦う。
- ④ 忠世…長篠・三方ヶ原・上田・長久手など、多くの戦いでの手柄の大ききから本家(忠俊)を凌ぐ。
- ⑤ 忠隣…家康の旗本として出陣、常に家康の近くにおいて護衛。秀忠の二代将軍擁立に尽力。

妙國寺は広大な領地を持っていた

- 近隣のお寺さんは皆さん、妙國寺のことは「和田さん」と呼びます。和田は、上和田・下和田とあります。ここに草庵を建てたのが妙國寺の始まりですが、上和田から南の土地にかなり広大な（何町歩という）領地を持っていたんです。戦後、農地改革で土地を貰った人が、何人か、今でも年始にご挨拶にみえます。境内に、大きな“壺”がありますが、あれは、小作が作った米のうち、自分のところで食べる分を入れていたものです。あとは売って年間の費用にしました。この寺は、大久保だけを祀っていればよかったんです。農地改革で土地はとられましたが、寺の周りに雑木林があり、これは残してもらいました。（壺の写真；「資料編」に）
- 妙國寺は、大久保家だけを祀り、一般には窓を開いていなかったもので、檀家はありませんでした。農地改革で土地がなくなって、年貢もなくなったので、さあ、どうしようかと。当時の住職が、檀家を増やしていく努力をしたんです。私は25代目ですが、今、檀家は150軒くらいです。妙國寺クラスなら、500から1000軒あっても普通です。



お寺は少ない法華宗。妙國寺の開山は泰藤の妻の父

- ホッ美仏教会のお寺で、法華宗は妙國寺だけです。三河は浄土真宗が多いです。岡崎は寺院数が多いんですが、ホッ美は浄土真宗の本場です。これは蓮如の布教によるものです。法華宗は、岡崎では4寺（長福寺・願成寺・東林寺・妙國寺）しかありません。日蓮は鎌倉で勉強しており、日本仏教の母山である比叡山で修業に行くわけですが、岡崎は通り過ぎるだけでした。
- 宇都宮泰藤の妻・徳子の父の、岐阜の里見城の城主であった多田頼直が、鎌倉で行われた、仏教について勉強したことについて戦う「法論（仏法の教義に関する議論）会」（問答）において、法華宗総本山本成寺の日印聖人が論破する姿に感動し、上人を師と仰ぎ「日道」と名乗って出家しました。その後、1341年にこの地（娘婿 泰藤の地）に草庵を作りました。これが妙國寺の起こりです。

戦後（昭和22年12月8日）に米軍が撮影した空中写真（妙國寺所蔵）。妙國寺近辺を切りとったもの。
全図詳細は「資料編」に。

犬頭神社の祠

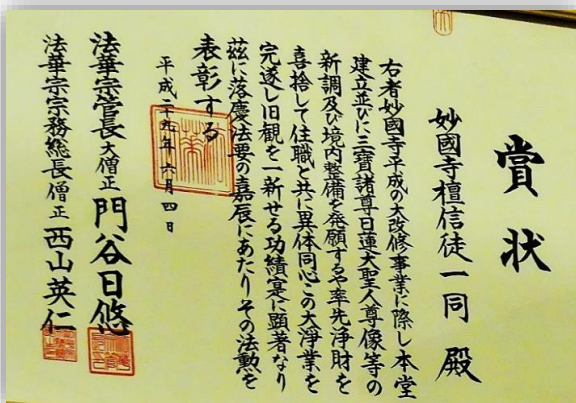


祠の主は、犬の頭か、それとも新田義貞の首か???

- 宇都宮泰藤の逸話として有名なのが、皆さんご存知の「犬頭伝説」の主人公だということです。“上和田の城主・宇都宮泰藤を大蛇から守ろうとして吠えた白い犬の首をはねてしまったが、その首が大蛇をかみ殺した。泰藤は驚き、後悔し、忠犬の霊を慰めるため犬頭霊社としてこの宮に葬った。”というものです。この、村社・犬頭神社とセットの寺が、妙國寺です。切られた尾が、飛んでいったところに犬尾神社を建て祀ったというお話です。犬尾神社は、犬頭神社の1.5kmほど南の下和田です。こうした話からみても、和田一帯が大久保の関係したところであったことがうかがわれます。
- 犬頭神社の祠については、宇都宮泰藤が京都でさらし首にされていた義貞の首を奪い返して、三河国和田郷まで持って逃げてきて、犬頭神社に祀った。このことを欺くために、犬の塚であるということ流布したという説も有力です。

本堂の建てなおし—江戸・平成

○大久保氏は江戸に行きました。そうなる
とこの寺は空寺になり、江戸時代に数回
空になりました。その時は、乞食が住み
ついたり、荒寺に近いものになり、火事
も出たりしました。そんな荒れていた寺
を、江戸時代中期に建て直しています。
仏さまも立派なものになりました。
天井絵も、江戸の画家に描いてもらって、
徐々に天井に貼っていきました。
その本堂を新しく建てなおすことになり、
祭壇の金箔も貼りなおしました。天井絵
は、すすけていましたが、折角のものな
ので、きれいなものは、新本堂の天井に
移しました。
檀家の皆さんには、本当によくやってい
ただきました。大感謝です。



- 近世の日本文化を作ったのは、尾張・三河の文化です。明治維新は、まだ150年前です。この間にいい国になりました。日本をいい国に作り上げた文化について子供たちに知ってもらうことが必要です。そのためにも、日本の文化を作った歴史を、代々伝えていくことは、必要なことだと思います。三河のいいところが伝わっていくといいと思っています。
- 作左の「日本一短い手紙」は有名ですが、原文はご存知ですよね。
「一筆申す 火の用心 お仙瘦さすな 馬肥やせ かしく」
文章の簡潔さもありませんが、300年前のこの時代に、奥さんに出すという優しさがいいなあと思います。
- 日蓮は「母親は、死んでから蒲団をかけても、暖かいとは言わない」と言い、普段から心と態度で、きちんと感謝の気持ちを伝えることが必要だと説かれています。こういう気持ちで皆が生きるなら、戦争は起きないと思います。
- 日本の宗教は、人の命を取ってもいいとは言っていない。私は、仏教に巡り合えてよかった、日本に生まれてよかった、と思います。
- 今、新型コロナウイルスで大変ですが、岡崎で感染者の受け入れを決めました。大変いいことだと思います。早く落ち着いたらいいと願っています。

「御朱印集め」はスタンプラリーではありません。
○御朱印は、死んだとき持っていく信仰の証です。お寺に行ったら、お堂に上がってまず手を合わせる。その後、御朱印を頼むのです。御朱印は、本来、修業してもらいものなのです。

続きは、「資料編」で

「作左の会」ホームページを

作左の会

検索

「一筆啓上・作左の会」



そこで、私の「短い手紙」

参加者は、お守りをいただきました。御神木のクスノキが寿命だったので、新本堂建築に合わせて切り、大黒天と鬼子母善神の木像を作り、その残りで作った根付守だそうです。1000円以上の御利益があります。

◆新本堂の格天井



↑「資料編」に抜粋の絵。

三河の文化は本当に素晴らしい！

- 私は高校時代、身延山に籠り、大学は東京へ出ました。その時、三河はすごいと感じました。今も、東京は地方の人が多いのですが、江戸は、徳川の関係で、三河から行った人が多いのです。江戸をはじめ、関東の基礎を作ったのは三河の人です。また、江戸文化を作ったのは尾張・三河の人たちです。三河・尾張の文化は素晴らしく、それが、日本文化の特長に生きています。
- 作左の会の活動は、大変いいです。地元の歴史を守ることと続けてほしいです。日本はいい国になりましたが、今の日本の良さを当たり前と、子供たちは考えています。

